# 「セーフティ・カレッジライフ―大学生の「交通安全」へのすすめ―」の刊行について

学生部

現在，わが国では1年間に，交通事故によって1万人以上の人が死亡し，その何倍もの人が負傷している。まさに「交通戦争」である。それも各方面の懸命の事故防止キャンペーンが行われている真っただ中においてである。交通事故は加害者にも被害者にも人生を狂わす悲惨な出来事である。自分は大丈夫，事故を起こさない，遭わないと思っているかもしれないが，事故に関しては大学生も例外ではない。いや，大学生だからこそ起こしやすい，遭いやすいと認識した方がよい。それは大学生が若いし，モラトリアム期にあって社会的責任観念が乏しい上に，運転技術がまだ未熟で，地理的に不案内でありながら夜昼となくうろうろすることが多いからである。広島大学でも事故で死亡したり，傷ついたりする学生が後を絶たない。それどころか，増える傾向にある。

そこで，広島大学では，以前から入学時に交通安全のための講話をするなど事故防止の努力をしてきたが，新たに「交通安全教育」に関する検討委員会を設けて，さらに積極的に交通安全教育のあり方を検討している。その一環としてまず，「セーフティ・カレッジライフ」をめざして，交通安全の手引きをつくることにした。手引き作成に当たっての委員会の基本的スタンスは，「車を持つな，車にのるな」というお説教ではなく，「かしこいユーザー」，「事故の危険を十分認識したライダー，ドライバー」になれということである。車は道具だから利用することはいい。しかし，運転の基本的テクニック，運転時の陥りやすい落とし穴，さらには事故の可能性，事故が起こった時の処置などを心得てほしい，というわけである。

こんなことは分かっていると見過ごし，ポイするのではなく，とにかく，読んでみてほしい。車に乗る人も乗らない人もである。これを材料にして，教室やサークル仲間で話し合ってもらいたい。

（交通安全教育に関する検討委員会委員長　吉森　護）